

平成 24 年度 地域懇談会

平成 25 年 2 月 10 日(日)

午前 10 時～11 時 45 分

健康文化センター1階 多目的室

1. 「参加と協働の約束に基づく制度施行規則」第 27 条による課題

大口町のコミュニティバスを考える

2. 対象地域

北地域(外坪・河北・上小口・中小口・下小口)

3. 懇談会参加者(10 名、敬称略)

外坪区	藤田金生	河北区	岩田六郎	上小口区	藤川義廣
中小口区	重田輝一	下小口区	田上輝正	議会議員	江幡満世志
議会議員	大島保憲	バスサポ隊	三輪純一	バスサポ隊	前田一紀
町 長	森 進				

4. 懇談会進行

地域振興課長 平岡寿弘

5. 司会進行

地域協働部長 杉本勝広

6. 会議記録

地域振興課長補佐 佐藤幹広

地域協働部長（杉本勝広） 改めまして、皆さんおはようございます。皆様方には、大変お忙しい中ご参集いただき、誠にありがとうございます。ただいまより地域懇談会を開催させていただきます。

私は、本日の司会を務めます地域協働部長の杉本勝広です。よろしくお願いいたします。この地域懇談会は、まちづくり基本条例の規定にもとづき、町長が議会、自治組織、その他さまざまなまちづくりの担い手とともに、大口町のまちづくりについて意見交換をする場として開催されるものです。本年度は「大口町のコミュニティバスを考える」と題して、今後のバス事業の方向性について、皆様からご意見をいただく機会としてまいりたいと考えております。

初めに、地域振興課佐藤課長補佐よりコミュニティバスについて概要と検討課題の説明を、続いて大口町コミュニティバスサポート隊の方から活動報告を、それぞれパワーポイントで説明させていただきますのでよろしくお願いします。

＜スライドに基づき説明＞

地域協働部長（杉本勝広） 担当課からコミバスについて概要と検討課題を、バスサポの前田さんから活動報告をいただきました。引き続き、意見交換に入ります。参加者の皆さんは、前の席へご着席いただきたいと思います。

＜席を移動＞

地域協働部長（杉本勝広） それでは、本日ご参加いただいています皆様の紹介をさせていただきます。

＜参加者を紹介＞

地域協働部長（杉本勝広） 本日の懇談会は地域振興課長の平岡を進行役にさせていただき、座談会方式で進めさせていただきます。これよりバトンタッチしますので、よろしくお願いします。

地域振興課長（平岡寿弘） 司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いします。今日は、座談会方式で進めさせていただきますので、それぞれご発言を賜りたいと思います。まずもって、バスサポ隊の皆さん、ご報告ありがとうございました。私ども、住民活動という部分での取り組みが遅れていましたけれども、今はそういう形で住民の皆さんにご協力いただいているということです。

事前にスライドをご覧いただきましたが、4点ほど課題がピックアップしてあります。先ほどのスライドと重複するかもしれませんが、町長さん、総括として、この10年を振り返って、この課題が出てきた背景、町長が考えていることなど、3分ほどでまとめていただき、皆さんにお伝えいただきたいと思います。

町長（森 進） 平岡課長からの指名ですので、バス事業について少しお話しをさせていただきます。平成15年にバス事業がスタートしました。この時の目的というものがいくつかありました。その目的の一つに、公設公営でのバスの運行というものを民営化での運行にしていきたいというのがありました。

それと、非常に細かな目標設定をして、担当課としてはこのバス事業に取り組んでいます。今までの行政の中では、そのような取り組みはそんなにはなかったと思います。もう一つは、エコモビで表彰を受けた理由である町内企業との連携、このために職員が企業にセールスして広告の支援をいただくことの話を取りつけてきて、それが継続して町費の削減になっています。

ここ数年を評価させていただくと、バスを利用していただける人数も、あるいは町費の削減に

についても、支援していただける町内企業についても、これから先も評価いただけるものになっていくのかどうか、非常に微妙な状況にあると思っています。

そんな話を担当課とする中で、今私どもの大きな目標である巡回バスの運行・運営について、広く皆さんの声を聞いて、定着しつつあるバス事業をこれからどうするかということを課題として、広く皆さんの意見を聞いてみて、大口町のバス事業をどうするかを検討したいと話をしています。

大変厳しい状況の中での話ですが、今までの公共交通機関のなかった大口町に10年という実績がありますので、廃止もできない。かと言って、これ以上、町費の負担を増やすことも難しい。そういう中で、一人でも多くの皆さんの知恵を借りて、定着してきたバス事業の継続を図っていく方法を模索したいというのが、今の私の感想です。

地域振興課長（平岡寿弘） これから先に向けて、今だからこそ次をにらんで考えようということかと思います。今日集まっていたいただいたのも、目先のことでなくて、5年先、10年先を見据えてやっていこうという話であったかと思います。

最初のテーマとして、公共交通は市町村が担わなくてはいけないのか、そうでなくてもいいんじゃないかというようなことですけれども、一般的には、市町村が担うのが主ですけれども、最近では住民組織や商工会等がそういう事業運営に当たっているところもあります。まずは、この運営について皆さんの考えを聞いてまいりたいと思います。

江幡さん、どうですか。この運営ということですが、当初の目標としては民間への移行、民間には住民組織も含めてですけれども、その辺りについてお願いします。

議会議員（江幡満世志） 結論から言うと、行政で担っていくというのはもう限界だと思います。5年先10年先を考えると、これは不可能だと思います。というのは、今現在財政的に金額も確実に増えている。利用者もおそらくこれは頭打ち、企業の利用だとかそういったものも開拓済みという状態だと思っています。そういうために、バスサボ隊の方がいろいろなことをやっていたいっている。かといって、住民が担っていけるかといったら、これもやはり難しいと思います。それには限界があるわけだから、アイデアとか、アンケートとったりとか、町民の声を集約したりとか、そういったものにはバスサボ隊の人たちは大きく貢献していただけたと思うけど、実際運行にはどうだということになると、今現在運行している会社などに任せていく。経費的な部分に関しては、最終的には町で負担していかなければならない。もうちょっと踏み込んで、トータル的に運行体制も考えていく必要があると思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） 江幡さんから、先行きを見ても行政で担っていくのは難しい、さりとて住民組織でも難しいという話でしたけれども、この辺りについて、藤田さんどうですか。

外坪区（藤田金生） 方向性としては、当然民の方へと思うわけですが、民の方でなければ、皆さん方の意識が変わっていかないということ。みんな甘いことを知ってしまっているんで、小さな町の、それこそ自転車で行けるぐらいの町、しかも車は一人1台、そういう生活してきているので、この意識改革をどうしていくか、自分たちのバスという意識を町民の方々に植え付けて進めていく。そこまでもいろんな課題はあると思います。企業の思いもあるでしょうし、住民の方の思いもあるでしょうし、あるいは地域間のいろんな考え方もあるでしょうが、そういうものも含めて、皆さんで話し合っていていただいて、最終的には自分たちのバスだと、そういう意識改革がその中で調整しながら育てていけるのか、そんな課題を持って取り組んでいったら、少しは民へ

の活力となって進めていけると思います。

地域振興課長（平岡寿弘） 藤田さんから一つのキーワード、意識改革という言葉いただきました。それと、土地柄というか、決してマイカー利用を否定するわけではありませんが、いま私どもが置かれているところは所有台数が2台3台という現状がある。そうした中で、これから先、年齢が高くなっていく。今はいいが先行きを見据えたときに、こういう意識改革をしていく必要があるのかと思います。

今、自分たちのバスというような言葉が出ました。実際に、自分たちのバスづくりにスタートを切っていただいたバスサポ隊の三輪さん、自分たちのバスというイメージ、おおもとの運営組織をどうしていくかというテーマとは少しずれてしまっていますが、自分たちのバスというところのイメージをお話しいただければと思います。

バスサポ隊（三輪純一） なかなか重たいテーマだと思いますが、確かに大口町の場合は、交通機関がありませんし、私が住んでいる河北地区なんかですと、駅に出るにも非常に時間もかかる。マイカー若しくは自転車ぐらいいしか方法がないところに住んでいます。今、平岡さんがおっしゃったこととずれるかもしれませんが、先ほど江幡さんがおっしゃった話を聞いてなるほどと思いました。今あるバスをもうちょっと有効に、今4台で運営されていますが、あまり町の経費を使わずに、それをもっと有効に利用しよう、そのために私が考えているのは、みなさんお持ちの自家用車、それから大口町のコミュニティバスをうまくジョイントさせてやる。一つの案ですか、例えば、役場の前に大口町は大きな駐車場を持っています。この周辺の市町と比べても一番大きな駐車場です。隣にはアピタもある。だから、巡回バスのターミナルを、要するにバスの起点を役場の前につくって、マイカーで出てきて、駐車場に車を置いてそこから出掛ける。あるいは、従来の巡回バスで中央の役場に出てきて、そこで乗り替えて駅に行くなり、ショッピングセンターに向かうというような、集中型のターミナルをつくってはどうかと思います。

他にはこういう方法というのがないんですが、たまたま利用状況が、北部ルート、中部ルート、駅から遠いところの利用者が多い気がします。企業は別ですが、一般住民の利用はそのような傾向がある。特に41号線の東側、河北、外坪地区のようにへんぴなところから出てこようとすると、今私が申し上げたような方法と組み合わせながら使っていくと、もうちょっと利用も増える。要するに、車両の数も増やさずに、ダイヤやルートを研究していかないとはいけませんが、そんなことをしたらどうかと思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） ちょっと私の振りが悪くて、次のアイデアを発表していただいて、これは次のコーナーでお聞きするんですけど、ただ今言われたように、自分たちのバスだということをおっしゃっていただいたことを汲み上げていかなくちゃいけない、それにはより多くの方にアイデアを出していただくということだと思います。

外部化の話ですけれども、なかなか難しい話だと思います。運営の中にはハード面の部分、実際に路線をどう組むとか、時刻をどう組むとかそういう部分と、利用促進をしていくというソフト面があると思います。これまで行政が担ってきたわけですが、私ども地域振興では、それぞれが担える部分、全部を押しつけるのではなくて、利用促進にかかわるところは住民の人に助けていただいていると思っています。そういう整理していく部分があると思っています。すぐに民間というような形にはならないと思っているんですが、今委員さんの発言を聞かれて、町長どうですか。

町長（森 進） 先ほど外坪の藤田さんが言われたように、今大口町内、1家庭で3台ぐらい保

有してみえるんじゃないですかね。自分の生活のリズムに、都合のいい時に車を活用して用が足せる。行動ができる。自分中心の生活ができる環境が整っている。充実し過ぎている。そういう中で、巡回バスを受け入れるときに、自分たちのバスだと思っていただく、そういうバスにしていくというのが一つの切り口だと思います。最上級の状況にある中で、果たして個々人の生活を公共交通機関という決められたダイヤの中で生活を見直すということが本当にできるなら、公共交通機関としての大口町のコミバスは、これからも町民の皆さんに愛されていくんではないと思うが、このあたり、私には具体的に思いがつかないが、今言ったそういうところをフォローできる何かアイデアなり考え方があれば、むしろ藤田さんにお聞きしたい。

外坪区（藤田金生） 現状のいいところをもっと伸ばしていくということ。例えば、バスサボ隊の11月のアンケートですと、バスを使うのは買い物とか役場への用事が半分近くあります。そちらの利用が多いということであれば、そこにお得感というか、そういうものをつけてあげて、何事も経験してみなければ分からないので、一人でも多くの方に経験してもらうことを考えてはどうかというひらめきがあります。火曜特売とか水曜特売とかありますね。そういう日にバスを半額でやるとか。ただし半額にするとその分は足りなくなりますので、その辺は集客率を考えたらお店にとっては非常にメリットがあるので、その辺でご協力をいただく。あるいは、ちょっとへんな話ですが、回数券の販売手数料を1割ぐらいあげて、その利益でご協力してもらって取り返すとか、こういうことも考えられます。なんとか特売とかでお得感を与えたり、役場へ来るたびにたくさん使っていただけるのであれば、ポイントカードにして、何回も来ていただいたら割引きするとか。実際、昼間の乗車率を上げたいわけですから、1日150人ぐらいですか。町から持ち出しの費用を3,000万円だとすると、それをペイするには800人から900人ぐらいの利用でペイできるわけです。往復で400人。その時間帯に町内に見える方、主婦の方でしょうし、お年を召した方かもしれませんが、そういう人にお得感を与えてやるのも一つの切り口ではないかと思いました。

地域振興課長（平岡寿弘） やはりそれぞれ課題もあり、そうした中で方向性というか、藤田さんからいただいたのも一つの方向性と思っています。皆さんそれぞれ違った切り口でいただいていくことが必要かと思っています。一つ整理させていただきますと、結論は出ていないんですが、外部化のところ、行政が直接やり続けるのか、あるいは民間移管、それには住民組織、各種団体が運営していくことも可能かと思いますが、それぞれが担うべきところを整理していくことが必要かと思っています。まずはやれるところから手を打つ。先ほど言いましたようにハード面の問題もあります。具体的に専門家のノウハウを借りなければならないこともあるでしょうし、住民レベルで、アイデアで取り組んでいけるところもある。そういう展開をしていく。ただ、行政がやり続けることもなかなか難しい状況にあります。その辺りはご指摘いただきましたけれども、それも踏まえて、今後の展開に結び付けていきたいと思っています。

それぞれアイデアが出てまいりました。実際のところ乗っていただいてなんぼというところがあります。いくら精度を高くして走らせても、皆さんに使っていただけなくては意味がないので、使われる方にどう提供していけばいいかと思っています。それぞれご利用をいただくために、アイデアとしてキーワードにして書いてくださいとお願いしてありましたので、ボードを上げていただきたいと思います。皆さん、よろしいですか。

<パネルを提示>

地域振興課長（平岡寿弘） 大島さんから「一日乗車券の活用」という今のシステムの中にあること書いていただいていますので、少し説明をお願いします。

会議議員（大島保憲） 1日乗車券と1乗車の回数券の販売をしているが、なかなか1日乗車券のお得感とか使い方が分かりにくいというのが、去年のふれあいまつりでのアンケートに、1日乗車券の存在感、割安感がないという方が多かった。大口町のホームページにもそのアンケートの結果が出ているが、例えば、自宅からアピタに寄って、役場で用事を済ませて、帰りに風呂に入って帰ろうかと、こういうときに今の運行ルートだと3回ぐらい乗り継ぎすることになる。帰りも2乗車ぐらいしないと帰れないかもしれません。運行ルートによって使いづらいことありますが、1日乗車券の200円で4か所も回ってくると、かなりの割安感が出てくる。町民の皆さんにこういう利用方法があるとか、割安感が分からないので利用しない方があるかもしれないので、広報などで周知して、PRに努めたらどうかということを提案します。

それから、運営について私なりの意見があります。

運営を民営化してしまうと、運賃収入だけでやるというのは非常に無理がある。そのためには、町の方から補助金は出さざるを得ない。運行ダイヤ、ルート、バス停の位置、利用頻度に応じて住民からいろんな提案してもらう。ハード面は民間バス事業者によるノウハウを使って経営を一般に委託していく。それによって運営ができていく。完全民営化は難しいだろう。住民の意見を聞いていく、こういう展開を民営化にしていってらどうか。

この近くにも民営化しているコミバスはたくさんある。愛知県でも9市町、民営化のバスがある。もちろん、行政が単独でやっているコミバスもある。いずれは半民営化、そういう方向は、私はやむを得ないと思っている。以上です。

地域振興課長（平岡寿弘） 先ほどのテーマについてのご意見をいただきましたけれども、大島さんが言われたようなことが現状なのかなと思います。その方向性については、近隣でもそういう例があるということですので、そういうことも研究しながら進んでいく必要があると改めて感じました。

アイデアの話では、お得感というかそういうものも必要ということがありました。そういう利用ということで、藤川さん、何かこういうやり方があるんじゃないかというものがあればお願いします。

上小口区（藤川義廣） 実際、私はバスに1回も乗ったことがありません。上小口に住んでおりますが、たぶん、上小口の住民の方は、買い物はすぐ近くにバローがありますから、バスを利用するとか、そういうことはまず考えられない。これは偶然かもしれませんが、昨日出掛ける時に、巡回バスがバローに入ってきて、お客が乗っているかなと見たら、相変わらずゼロでした。また、バローから乗られる方を見ても、ほとんどゼロです。もちろん、時々はあるとは思いますが。私はバローの近くに住んでおりますけれども、そういう状況ですので、このルートは必要だろうか、はっきり言って思います。まだ務めていますので、土日だけしかこういう光景を見ませんから、平日はどうか分かりませんが…。

ルートの拡大ですけれども、きめ細やかなデータのもとに作り直した方がいいんじゃないかと思います。また、土日の地域の行事に使うことができるかどうか。子ども会とか、歩け歩け大会があった場合、いつもと同じところばかりより、扶桑の緑地公園辺りで大会をやったときに、バスを利用できるかどうか。大口町内から少し離れた地域でも利用できるようなそういう状況にな

っていけば、少しは増えるのではないと思います。

乗る方も結構贅沢なもので、できるだけ自分の家の近くに来てもらって、自分の目的のところにすっと行けるというのが皆さんの希望だと思います。いちいち住民の希望を聞くのは無理ですけど、もう少し中に入ったサービス、これからの高齢化社会を考えた場合、ある程度そういう高齢者の立場、福祉的な立場もこれからは少しずつ必要になってくるのではないかと思います。

そして、集落にも誰か道案内というか、そのような立場の人がいて、どこそこの近くまで行ってください、今のバス停ではちょっと遠いですからとか、地域によってかなり変わるとは思いますけど、萩島、仲沖、河北も入れてどうかわかりませんが、その辺の住民の方はどう思っておられるのか。上小口はそういう点では便利な点が多いので、店もない、病院もちょっと遠い、そういう地域の方を優先したらどうかと思います。データのどのようないふうなデータが出ているのかわかりませんが、将来的には、厚生病院という要望も出ているようですけれども、福祉に関したルートも必要になってくるのではないかと思います。以上です。

地域振興課長（平岡寿弘） 今、空気を運んでいるというようなニュアンスをいただきました。今日お見えの傍聴の方にもお聞きしますけれども、実際にバスに乗ったことがあるという方、挙手をお願いできますか。

<挙手あり>

地域振興課長（平岡寿弘） ありがとうございます。ある程度ご利用いただいているのかなと思います。やはりそれぞれの使い勝手、いろんな課題があると思いますが、今言われたようなこともあるのかと思っています。地区の状況の話もありました。岩田さん、河北ですね。地域限定になってはいけませんが、岩田さんはどうしたらいいかということについて、少し伺えたらと思います。

河北区（岩田六郎） サービスには2種類、企業へのサービスと住民へのサービスがあって、金額とか人員とかを見てみても、結構、企業の助けがあると思います。企業の助けで安定した人数、金額が出ているようなので、こちらの方も伸ばしてかないと、安定した収入が得られないということだと思います。

住民へのサービスは、どんどんサービスを良くすると、どんどん走れば走るほどお金がかってしまうというようなことで、サービスを良くすることで逆の結果が出てしまう。そういったことを考えると、バスの事業、これから皆さんにサービスして乗ってもらおうと思うと余計にお金がかかる。これから先にはバスの買い替えとか、いろんなことで町の負担が増えるだろうし、年齢もどんどん高くなって行って、サービスを増やせば増やすほど金額が増えていく、その辺をこれから考えていかないといかんと思います。丁度ここに見える人は北地域ということで、新しい自治組織もできていくということですので、いろんなことをもう少し多くの方で内容をねって、いろんな意見を集約していかんかと思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） 田上さんはどのようにお考えですか。

下小口区（田上輝正） 1点目の部分も少し触れさせてもらっていいですか。結論から申しますと、民間の力を活用した組織にして運営を図るべきではないかというのが私の結論です。皆さんご承知のように、民間が事業として運営できないから公共交通機関がなかったのであって、それを行政として町民の足を確保すべく今日の状況があると思います。ところが、この種のサービスは、誤解のないようにしていただきたいのですが、サービスは際限がないんです。これ以上いく

と、2人、3人、4人がゴルフの練習場に行くから乗せていってくれというところまで起こりかねない、それがいい悪いは別にして。そういった点を考えますと、やはり民間の力を借りた組織で、先ほど大島議員が言われたように、ある程度の補助金を付けて、いろんなノウハウは民間の力を借りて運営していく方がいいんじゃないかと思います。これが私の基本的な思いであります。

それから、押さえておかなければいけないのは、バス事業と言っていますが、事業として捉えるのか、福祉なのかということです。だから、事業として考えるならば、乗客が減ったから増やそう、収益を上げようという話になるわけです。福祉と考えるならば、大口町の予算の中で、大口町民2万3,000名のためにここまでの予算として足を確保してあげようという話になる。ここを押さえておかないと、昼間乗らない、乗ってもらうために何をすべきか、という少し方向性が違ったものになっていくんじゃないかと思います。

だから私は、本来は事業でなくて福祉だと。公共交通機関のない大口町に、町民の足として、利便性として運行するというのが本来あるべき姿ではないかと思っています。したがって、3,400万円の費用が2万3,000名の町民1人当たり、年間1,500円かかる。1か月百何十円、町民一人当たりが負担して今日運営されていることを押さえて、これがどうなのかということから入らないと、昼間に何百人何千人乗ってもらおうという話から入っていくと、おかしくなっていくと思います。

質問2のポイント申し上げます。私は、現役世代の通勤通学を中心としたサービスを図るために、もっと考えていただきたいと思っています。私も高齢化して、その入り口にいるわけですが、やはり子供を守る、お年寄りを守るというのが、今日の非常に大きな話題になっていますけれども、それが多くの国民・住民の賛同を受ける言葉になっているが、現役世代、働き盛りのまっ最中にいる子どもさんを育てている人のために、何をすべきかが欠落している気がします。したがって、高齢者がショッピングに行くとき、病院に行くときに、その足を考えてあげるのも大切ではありますが、現役世代が自転車で駅に行く、マイカーで駐車場を確保していく、そういうこともどうやって支えていくかを考えていくべきだと思います。

したがって、もっと突っ込んでいくと100円の料金を150円に上げたっていい。もっと利便性があるならば。自転車1台預けて150円の時代です。通勤・通学でもっと便数を増やして、きっちとした時間帯がありますから、もっと工夫すれば、もっと多くの人に駅へ多くの町民の皆さんが利用するのではないかと、このように私は思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） 今言われたようなところをしっかりと押さえて、皆さんとお話ししていくことも大事かと思っています。町長に振っていいかどうか分かりませんが、事業か福祉かというようなところは大事なところだと思います。結論付けるわけではありませんが、町長のお考えをお願いしますか。

町長（森 進） 犬山の羽黒駅と江南駅、もう一つはバローから名古屋の浄心まで、大口町内に二つの名鉄バス路線があった。それが、羽黒駅から大口町役場に短縮され、それからバローから名古屋に行く路線が廃止され、そして江南駅と大口町役場のバス路線が休止になった。公共交通機関がないことに対して町としてどうしていくんだということが議論の俎上に上がったわけですが、最初に言われたのは、まさしく福祉のサイド、高齢者や車の運転ができない人の足をどうするんだというところから入ったんです。過去には、福祉バスというような位置付けで、先進市町の例を参考にしながら、職員が福祉バスの検討をした経過があります。実際に市町村がバ

スを運行できるわけではないので、どこかに運行を頼まないといかん。路線を持ってみえたところをお願いしたら、非常に金額も高かったし、福祉のサイドで考えると、少しでも自分の家の近くにバスを引きたいというのが人情としてあるわけです。そうすると、循環させる時間がかかりすぎる。車は大きくできない。路線も、20分30分ぐらいなら我慢できるが、それ以上待っているなら自分で行った方が早い。そういう路線の選定、1巡の所要時間の問題等があって、福祉でバス事業に取り組むのは大変難しいと感じたことがある。

平成15年にスタートしたバス事業は、福祉事業でスタートしたとは認識していない。ですから、公共交通機関のない大口町に初めて公共交通機関を誕生させて、10年の間で少しずつ定着していると思っている。福祉も、広い意味の福祉と狭い意味の福祉があるが、大きな意味での福祉で捉えれば、田上さんが言われたように、際限がなくニーズが出てくる。それに応えていくことは到底できません。先ほど人口の構造を見ていただいたが、後期高齢者に団塊の世代の方がまもなく入られる。そういう時代の中で、社会保障費はますますかかっていくわけです。その中の一環として、バス事業を福祉で対応していくのはとてもできるとは思っていません。

バス事業に対する私の考え方というのは、あくまでも公共交通機関としてのバス事業の展開で、福祉として必要な買い物支援とか、病院への送迎とか、さらにはタクシー助成、それは福祉のサイドで別途、町だけではなくて、民間の事業者、さらには地域の皆さんの協力に対応していく流れ、そういう中で考えていけたらいいのかと思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） 町長が考える方向性について話がありました。この辺りはその都度確認していく必要があると思っています。こういうことを皆さんに向かってきちんとお伝えしている場面がないので、今日こういう場所、町の方向性をお話ししたと思っています。こうしたことも確認しながら、次のステップに進んでいくことが必要かと思っています。どうしても所期の目的があやふやになっていく中で、何をやろうとしているのか分からなくなっていく。私ども所管課としては、皆さんと話をする中で、方向性がずれていないかチェックする。まさにそういうことを、この席で田上さんから投げてください。行政として、議会の方もお見えですけど、いま一度しっかり押さえる、まずやらなければならないことかと感じました。そうした意味で、貴重なご発言をいただいたと思っています。

時間が押してきて走る形になりますが、厚生病院までバスをという声があります。この問題について、皆さんの考えをお聞かせいただきたいと思います。

重田さん、思われる所で結構ですので、お話いただければと思います。

中小口区（重田輝一） バスに乗ったことがなかったものですから一度乗ってみようと、3日前に、アピタを中心に3路線乗ったんですけども、乗った中で感じたことを申し上げます。「バスがなくなったら困るんだよね」と河北地区の人が言っていました。その方は毎日乗るそうです。それから、私がアピタで仕事していると、バス停で時間を気にしながら、本当にバスが来るんだろうかと待っている人がいます。「8時半になってバスに乗れなかったら僕が送っていくよ」と声をかけたことも何度もありました。

もう一つは、身障者の車イスを乗せるときに、10分のロスがあるらしいんです。遅くなる。だから、待っている人にどうなっているんだと叱られるそうです。だから、バス停にそういう表示をすることを提案したいと思っています。以上です。

地域振興課長（平岡寿弘） 前田さん、厚生病院へのバスの件ですけれども、前田さんにおかれては江南の方の勉強会に参加されたことがあるとのことですので、その辺りも含めてお考えをお聞かせください。

バスサポ隊（前田一紀） 結論から言いますと、厚生病院まではぜひとも実現していただきたい。今日来ていただいている大多数の方の総意ではないかと思っています。この短時間でこれだけ大きなテーマをこなしていくのは難しいと思いますが、たぶん今日の来ていただいている皆さん、誰もかゆいところに手が届いていない話ばかりだと思うんですね。もっと住民サイドに立って考えると、行政もなかなか難しいというのは当然分かっていますけれども、弱い者いじめをしてはいけません。私も長年母を介護してきました。多いときは週に3日厚生病院に行ったり、車いすが必要にもなりましたし、認知症にもなりました。そういう人たちがこれから増えていく。今皆さんが言ってらっしゃるのは、自分は免許証がある、自分は車がある、バスはなくても平気だよという人が大半なんです。じゃあ、10年後15年後、視力が悪くなって免許がなくなりました。病院へ行きたいが、子どもたちはみんな巣立ってしまいました。そういうことを考えてから言っていただきたい。大口町はかなり高齢化している。自分で行けることを前提ではなく、行けなくなったらどうしよう。江南駅まで今あるバスを使って行っても、江南駅からだいぶ遠いところにバス停があるんです。そういう人が、松葉杖をついて江南駅まで歩いて行けないうる。乗り継ぎのロスの時間も、寒い中、あるいは雨の中待っていなければならない。福祉の観点、事業の観点当然ありますけれども、まず住民が一番喜ぶバス、私はコミュニティバスでずっと思っているのは「住民に愛されるバス」、これをつくりたい。今元気な人、バスがなくてもいい人は別に愛さなくていいんです、困っていないから。困っている人に愛されてもらいたい。いろんなアイデアが先ほどから出ていると思います。どんないいアイデアを出しても、使う人は使うし、使わない人は使わない。ですから、アイデアよりも住民の意識改革、車があるからバスは使わないという感覚を除いて、よそから来た人はなんて不便なところなんだろうという人たちの考え、体の不自由な人、先ほど振っていただいた江南でのあおい交通の話、江端議員の話にもありましたが、あおい交通のノウハウを生かした運行、そういうのをぜひとも大口町も考えていただけたらと思います。ちょっと興奮してしまってますいません。

地域振興課長（平岡寿弘） 前田さんの考えをお聞きしました。厚生病院だけがピックアップされてそこへ話だけになっていますが、当然小牧の市民病院へ行きたいとか、犬山の中央病院へ行きたいとか、そういう話も出てきます。この辺りの整理は、皆さんのお声を聞きながら思っていますが、何か特定して厚生病院だけが病院みたいになって話になっているが、その辺りは田上さんが言われた際限のない話、あそこへ行け、ここへ行けという話になると、とめどがないと思うんです。その辺り、田上さんどうですか。今は厚生病院だけが特化された話になっているとか、そういうところがあると思いますが、どうですか。

下小口区（田上輝一） 司会者がおっしゃるとおり、特定の病院というのは問題があると思います。確かに、私が近隣でもよく声を聞くのは、厚生病院というのはニーズが高いようです。しかし、厚生病院、小牧市民病院、犬山中央病院というのは結構ニーズがあると思います。私としては、今日の生い立ちとこのような運行をしているのであれば、法的に問題がなければ、病院への運行は考えていただけたらどうかというのが私の思いです。やはり、またこれも誤解のないようにしていただきたいのですが、わが町大口町に、事業を営む企業の皆さんの従業員の通勤支援と

いうのも大切なことです。名古屋から、あるいは他市町村から勤務でこちらに来られる。企業を守る。そこで働く従業員を守るという形での支援は大切なことです。しかし、一番大切なことは、ここに居住している大口町民です。大口町民が、やはり利便性を考え、助かるということを考えるならば、買い物、病院、通勤・通学、公共施設への利便性、やはりこういうバスを運行するに当たっては押さえておかねばならない問題だと思います。だから、コストの話はもっと違う意見が私はありますし、だから先ほど申しましたように、必要とあらば、若干の受益者負担を求める。運賃を上げて、多くの町民の皆さんが利用していただけるのであればそれでいいんじゃないかというのが私の考えです。

地域振興課長（平岡寿弘） 私ども行政サイドでは言いづらいというか、受益者負担という言葉も出てきました。当然安いに越したことはないです。100 円で厚生病院まで行ければいいと。だけど、100 円は運賃収入としていただくわけですが、運行経費は税金投入しているわけです。低料な料金で皆さんにご利用いただけたらということなんですけれども、実際 1 人乗っていただくと、実質的には 300 円ぐらいかかるんです。町はそのうちの 200 円を提供している。今言われたところ、必要であれば負担していくという考えも必要かと思います。そうであれば、いただいているコメントでは、そういうのであればコスト、コストというけれども、整理できるということなんです。どうしても行政とすると、お金の話を避けて通ってしまうというところがあるんですけれども、そういうことも今言われた中に入るのかと思います。

最後に、町長に私どもが思っているところ、町単独ではなかなか難しいところの含みを、方向性もかかわってくるんですけれども、町単独では難しいというところ、この場で皆さんに少しお話ししたいと思います。

町長（森 進） 本当に今日はありがとうございます。いろんな考え方、いろんな見方、私どもの考えているものとそういう所が違う、そういうこともあるんだと、そういう気づきもありました。どうしてもこういう立場にいと、まず防御に入ってしまうものですから、言われることは頭の中で理解できても、それを即実行に移す段になると、あれはいいだろうか、これはどうなんだろうというようなことを思い巡らすことがたくさんあって、現実、もっとシンプルに考えれば、また原点に帰れば、そんなにいろいろ考えなくても受け入れられていくような手法もあると思うんですけれども、ただ、今日のテーマであります厚生病院までのバスの運行ですけれども、僕は厚生病院は午前中だけの診療だと思っていましたが、今は午後も診療している。診療科によっては、事前に予約されて病院にかかってみるとお聞きする。そうすると、どの程度、江南厚生病院へ走らすのに、バスのやりくりができるのかと思ってみたり、送るだけではないので、帰ってきてもらうことも考えなければならない。そのときに、診療科一つで、ずっと帰ってこれる人、それから、診療科を回されて診察が終わって帰る人、一人ひとりの行動、時間が全く違ってくると思います。そういう中で、10 分 20 分待っていただいて、乗合でバスを使っただけかどうかを考えたときに、大口町の中で、空気を運んでいるという声は今でもあるが、数が少ない町内を巡回させるバスを減らして、江南厚生病院まで走らせるということが、大口町の公共交通機関ということを考えたときには、町単独で取り組むのは難しいという趣旨で従来からそのように話しています。これが、扶桑町、江南市と一緒に広域でどうだろうという話になれば、この協議の場について、少しでも町民の皆さんが江南厚生病院を使われるのに、足の不便を考えなくてもいいように見い出していきたい。そういう協議の場についてもいいと思っています。大口

町内で運行している巡回バスの延長線上で、大口町が江南厚生病院への送迎をするようなバス路線、あるいはバスのルートを考えていくというのは、議会でも答弁していますが、ちょっと今の段階では考えにくいと思っています。

バスサポ（三輪純一） 今、厚生病院について町長からご意見いただいたんですが、あるところからの情報によると、名鉄から、柏森駅から江南厚生病院ぐらいのバスは地元で考えていただいたらどうかと、民間からの振りがきているような話も聞いています。先ほどから、病院がこの周辺に三つもあって、一つだけは不公平だというような話もあるが、一番要望の高い江南厚生病院をまずはやれるならやって、後はそれを拡大するかしらないかの問題だと思うんです。私が思っているのは、大口の役場から柏森駅への延長線上に江南厚生病院がある。大口町から江南厚生病院へ直接入る路線は一つだけでいい。江南駅と布袋駅からは名鉄バスがある。要するに、二つの駅からは江南厚生病院へ行くバスがあるが、柏森駅からはないという実態がある。その通り道の中に扶桑町の山田外科がある。その辺も同じ路線にあるなら一緒に加えて考えていただきたいと思います。

江南市の場合は近いところだから自転車で行ける。路線の新設が必要とされるのは、大口町かと思います。

議会議員（大島保憲） 私は1週間に1回ぐらい江南厚生病院へ通ったことがあるんですが、布袋駅若しくは江南駅から江南厚生病院へ、30分に1回ずつ名鉄バスが出ます。日曜日でも1時間に1本出ます。そういう路線バスがあって、江南駅から220円ぐらいで乗れます。非常に便利です。

江南厚生病院前でやられた利用状況調査とかを考えると、大口町から直接江南厚生病院へ送っていくというよりは、むしろ既存の名鉄の路線バスを利用する方が、効果があるのではないかと思います。問題は、大口町のコミバスのバス停が江南駅からかなり遠いんですよ。名鉄バスは江南駅のロータリーの正面にあります。布袋駅も福玉精穀倉庫のところにバス停があって、駅まで遠い。そういうことから考えると、バス停をロータリーの中に持ち込めないかと思うんです。これは、民間の力を借りれば可能性がある。今は大口町のコミバスは控えて止まっている。そういうところは、民間バスの力を借りる手もあるのではないかと思いますし、改善をすれば、直接乗り入れをするよりも便利かと思っています。

地域振興課長（平岡寿弘） それぞれ、こういうやり方をすればというようなご意見をいただきました。今の時点で当然改善すべき点があります。まずは、そうした言われるところからやっていくことは必要かと思っています。

予定していた時間を過ぎていますが、今日いろんなご意見を賜りました。やはり私ども行政としては、再度振り返らなければならないことも多々ありました。これが終わりではありません。それぞれ2地区でも同じようなことをします。今日の会議を踏まえて反映していく。やはり皆さんの声を聞く機会が大事と思っています。傍聴の方には発言する機会を設けることができず、誠に申し訳ありませんでした。皆さんが感じられたことをアンケートに、ご意見として賜るよう準備していますので、ご記入いただければと思います。

つたない司会進行であっちへいたり、こっちいたり、取り留めのない会議になってしまいましたが、これで予定していました座談会はこれで終了させていただきます。

皆さんご協力ありがとうございました。

地域協働部長（杉本勝広） 本日は長時間に渡りありがとうございました。最後になりますが、

本日のテーマに対して、あるいは地域懇談会のあり方について、皆様のご意見を多くお聞きしたいと思っています。恐れ入りますが、本日受付でお渡ししたアンケートにご記入いただき、ご提出いただければ幸いに存じます。これをもちまして本日の地域懇談会を終了させていただきます。

なお、お帰りの際は交通安全に気を付けていただきますようお願いいたします。